

第 70 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和 3 年 7 月 6 日 (火) 13 時 00 分～14 時 40 分

2. 場 所 WEB 会議 (ZOOM システム)

事務局：日本私立薬科大学協会事務局

3. 出席者

会 長	井上 圭三		
副 会 長	後藤 直正	楠 文代	
常務理事	中村 明弘	浜岡 純治	
	加留部 善晴		
理 事	亀井 美和子	元木 和幸	
	田中 芳夫	堅田 利明	
	佐川 賢一	越前 宏俊	
	岩城 正宏	津田 裕子	
	宮田 興子	篠塚 和正	
監 事	富田 基郎	市川 厚	
参 与	乾 賢一	本間 浩	

出席理事数	16 名
WEB 出席	16 名

4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定に基づき井上会長が議長に就任し、本日の出席理事が 16 名であり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。また、議事録署名人として出席理事から、田中理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

(1) 前回議事録の確認について

前回議事録（第 69 回理事会：令和 3 年 6 月 1 日開催）について、全会一致でこれを承認した。

(2) 令和 3 年度教育賞受賞候補者の推薦について

井上会長から、資料 3 に基づき本年度の推薦方法について

- ① 規程第 4 条第 1 項「協会の議決権を有する者からの推薦」は例年どおり大学へ推薦を依頼する。
- ② 規程第 4 条第 2 項「特定の事業等に特に功績があった者について

は、協会の各種委員会の委員長が推薦できるものとする」については、委員長に推薦を依頼する。
以上の提案について協議の結果、これを了承した。

(3) 第 106 回薬剤師国家試験問題検討委員会について

中村常務理事（薬剤師国家試験問題検討委員会委員長）から、資料 4 に基づき第 106 回薬剤師国家試験問題の検討結果について以下の報告があった。

- ① 今回も全 7 領域にわたって、基本的・標準的な問題から読解力、思考力を要する問題までバランスよく出題されていたと評価され、「暗記だけでなく総合的に判断する力を求める問題」「図表やグラフを読み解く問題」「臨床や実務への応用を意識した問題」「問題文を読み解くことで臨床において求められる問題解決能力を測る問題」が多かったとの総評が寄せられた。
- ② 一方で、内容の誤り、適応外使用となる出題内容、科学的根拠に乏しい内容、新薬や時事問題の出題時期の妥当性、不適切な情報量、曖昧な表現、医薬品名の記載方法のばらつき、必要以上に複雑な表現、正誤が明確に判別できない選択肢、複合性の乏しさ、非現実的な症例設定、症例設定細部の矛盾等、具体的な問題点と改善に向けた提案が各部会の報告書にまとめられている。
- ③ 出題内容については、「本当に薬剤師になる前に必須の内容や医療に従事した数年の間に経験する頻度が高い重要な疾患を出題することが望ましい」との要望があった。
- ④ 前回の検討で新たに提起された薬剤師国家試験の“科目別出題”に関する問題点として、「薬剤師実務において領域（科目）の区別はなく、科目別に出題することには限界がある」との意見が広がりを見せ、複数の部会で取り上げられている。

なお、本報告書については、井上会長名で厚生労働省及び文部科学省へ報告すると共に、日程は未定であるが「厚生労働省医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験問題事後評価部会」へ中村委員長他 1 名が出席し、本報告書をもとに意見表明することも併せて了承された。

(4) 入学定員の 1.1 倍以上を受け入れた大学による超過理由等の提出について

井上会長から、資料 5 に基づき令和 3 年度において入学定員の 1.1 倍以上を受け入れた 4 大学から提出された超過理由等の報告があり、これを了承した。

なお、これまで1.1倍以上を受け入れた大学の超過理由をみると、近年特に、入学志願者数の減少や大学を取り巻く環境の変化等から、入学予定者数を読み込むことがかなり厳しい状況にあり、恣意的なものではないことから、今後、理由書を徴収することについて検討することとなった。

また、1.0倍をわずかに下回った場合の充足率は、引き続き表現方法についても、検討することとなった。

(5) 薬学教育協議会について

本間参与(薬学教育協議会代表理事)から、資料6に基づき、以下について報告があった。

- ・第64回理事会の開催状況について

(6) その他

井上会長から、文部科学省委託費「6年制薬学教育制度調査検討委員会」の「学習領域(大項目)検討小委員会」において、現在、コアカリキュラムの大項目のうち、B～Fの5項目をそれぞれの小委員会で内容の検討を進めているとの説明があった。

次いで、本間参与(6年制薬学教育制度調査検討委員会幹事会委員)から、7月2日に「学習領域(大項目)検討小委員会」の班長、副班長会議を開催し、これまでの検討結果をもとに、どのようなまとめ方をするか議論を行ったとの説明があった。

また、「中間報告」として公表する内容、スケジュールについては、引き続き検討するとの発言があった。

一方、「4年制大学院の在り方について」に関連して、昨年11月25日に開催された「薬剤師の養成および資質向上等に関する検討会」において参考人として出席した平田収正先生(現和歌山県立医科大学薬学部教授)の説明資料「大学院教育の現状と今後の展望」が報告された。

次いで、現在の大学院の現状、魅力ある大学院にするためには何が必要かなど、今後の大学院のあり方について種々意見交換を行った。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、14時40分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事
(指名された議事録署名人)、監事がこれに署名捺印する。

令和 3 年 7 月 29 日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議 長 井 上 圭 三
(押 印 済)

出 席 理 事 田 中 芳 夫
(議事録署名人) (押 印 済)

出 席 監 事 富 田 基 郎
(押 印 済)

出 席 監 事 市 川 厚
(押 印 済)